

「伴走型小規模事業者支援推進事業
に関する調査」

住民アンケート調査報告書

2017年11月

阿寒町商工会

もくじ

I 調査の概要	1
II 調査結果のまとめ	3
III 調査結果の詳細	
1. 買い物頻度	6
2. 商品の購買行動	9
3. 阿寒町での買い物頻度	13
4. 阿寒町内での買い物の不便感とその理由	14
5. 買い物支援サービスのニーズ	17
6. 阿寒町の商業活性化に必要なこと	20
7. 阿寒町行政センター周辺地域に必要と思う都市機能	22
8. 阿寒町にほしい物販店	24
9. 阿寒町にほしい飲食店	26
10. 阿寒町商工会への意見・要望	28
IV 資料	
1. 使用調査票	34
2. 集計表	38

I 調査の概要

1. 調査目的

町民の消費生活の実態、買い物動向等を探り、今後の商店街活性化策を考える上での参考資料とする。

2. 調査方法

郵送によるアンケート調査

3. 調査対象

阿寒町住民 1,000 世帯

4. 回答状況

有効回答 393 世帯

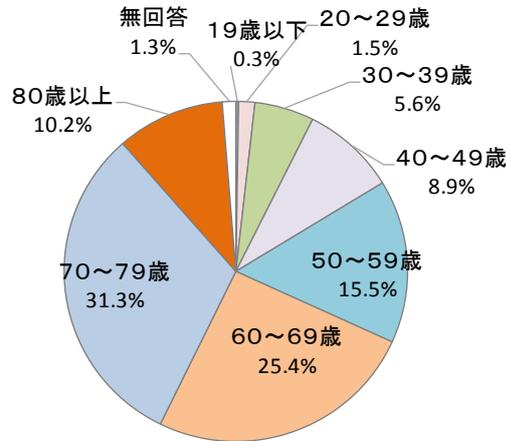
5. 調査期間

平成 29 年 09 月 14 日～平成 29 年 10 月 06 日

6. 対象者プロフィール

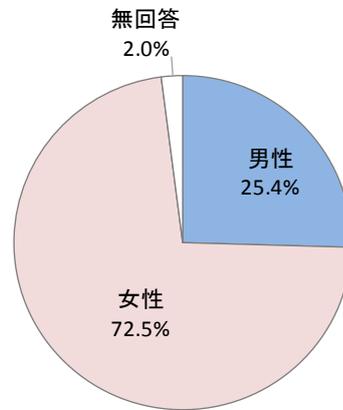
年齢

全体(N=393)



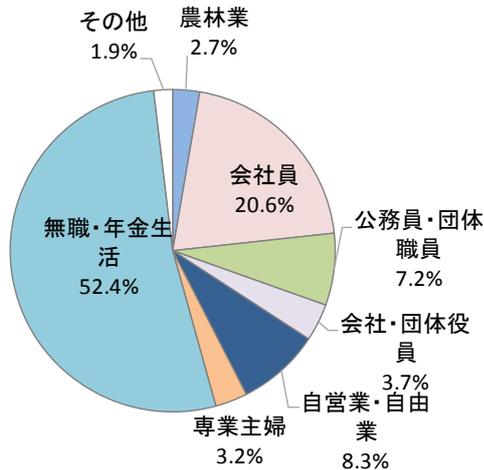
性別

全体
(N=393)



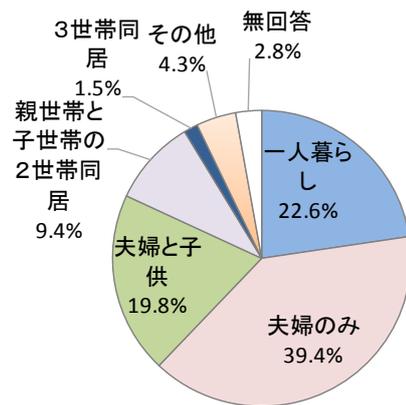
職業

全体(N=393)



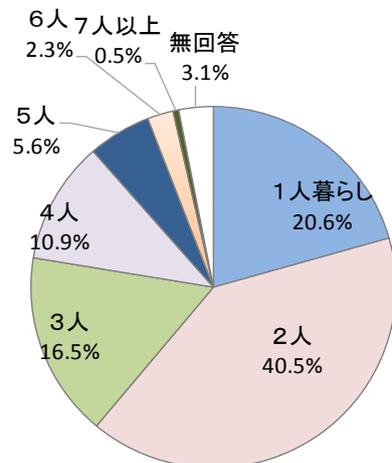
家族構成

全体
(N=393)



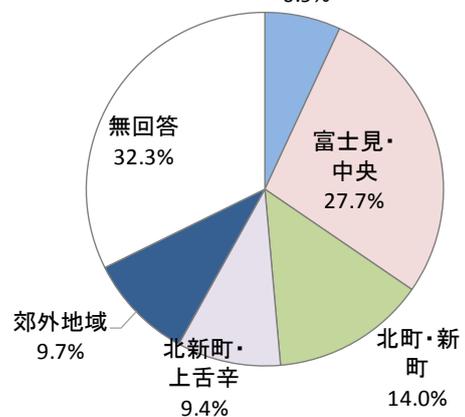
家族人数

全体(N=393)



居住地区

旭町・下舌辛・仲町
全体
(N=393)



Ⅱ 調査結果のまとめ

<買い物の実態>

- 買い物の頻度は、“週に1回以上”が夏期 82%、冬期 77%で、夏期の方が若干頻度が高い
・“週に1回以上”は夏期・冬期ともに若年層ほど高い
- 以前と比べた買い物の頻度は「減っている」人が「増えている」人を大きく上回っている
・「増えている」は39歳以下、「減っている」は60歳以上が高い
- ふだんの買い物に使う主な交通手段は、「自家用車」が7割強
・「徒歩」は年代別では70代、1人暮らしが高い
- 阿寒町での買い物頻度は、“週に1回以上”が7割弱
・年代別では40代、家族人数3人以上の頻度が最も高い

<購買力流出の実態>

- 阿寒町内で購入する割合は、「ガソリン」は4割台、「一般食料品」と「生鮮食料品」は3割台、「家庭用電気製品」は2割台だが、他の品目は2割に満たない
- 17品目すべて星が浦地区での購入割合が最も高い
- 「生鮮食料品」や「一般食料品」などの購入頻度の高い商品でも、阿寒町での購入割合は3割台で、星が浦地区が4割以上
- 1世帯平均年間消費額の16品目合計は 960,673 円、うち阿寒町での消費額は 223,935 円、消費額の 23.3%
- 釧路市へ流出している消費額が 560,451 円、58.3%
- 阿寒町内の全世帯における消費額は 25 億 7,500 万円、うち町内で消費されるのが5億 1,300 万円、阿寒町以外の釧路市に 15 億 500 万円が流出している
- 地元消費が強い食料品あるいは外食の中から町外への流出を食い止めることのできるアイテムがないかももう一度検討する

<商業の活性化>

- 阿寒町内での買い物に、“不便を感じている”は7割強
・「とても不便を感じている」は年代別では39歳以下と50代、家族人数別では3人以上、居住地別では郊外地域と富士見・中央が高い
- 具体的に不便な点は、1位「ほしいものが手に入らない」、2位「価格が高い」、3位「1カ所で揃わない」
・年代別では39歳以下、居住地別では旭町・下舌辛・仲町が高い項目が多い

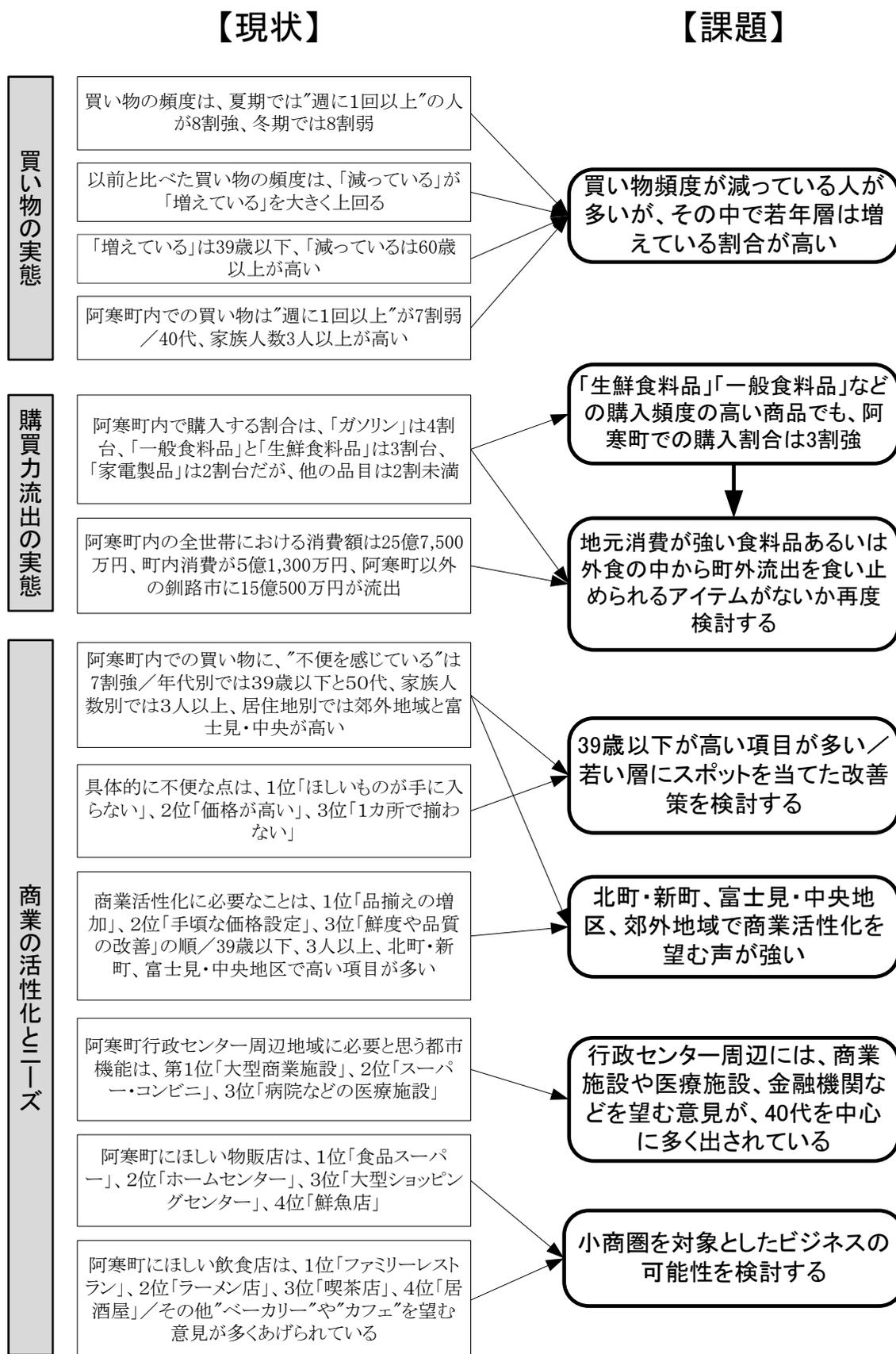
- 利用する割合が高い買い物支援サービスは、第1位「生協の共同購入・宅配サービス」3割強、2位「スーパーやコンビニエンスストアの買い物配達サービス」2割弱
- 阿寒町の商業活性化に必要なことは、第1位「品揃えの増加」5割弱、2位「手頃な価格設定」4割強、3位「鮮度や品質の改善」3割強の順
- ・年代別では39歳以下、家族人数別では3人以上、地域別では北町・新町、富士見・中央地区で高い項目が多い

<阿寒町にほしい都市機能、ほしい店>

- 阿寒町行政センター周辺地域に必要なと思う都市機能は、第1位「大型商業施設」、2位「スーパー・コンビニ」、3位「病院などの医療施設」の順
- ・年代別では、「大型商業施設」「病院などの医療施設」「商店街」「郵便局や銀行などの金融機関」は40代が最も高い
- 阿寒町にほしい物販店は、1位「食品スーパー」5割強、2位「ホームセンター」3割強、3位「大型ショッピングセンター」3割弱、4位「鮮魚店」2割強の順
- ・年代別では、「雑貨店」は39歳以下、「食品スーパー」は40代～50代、「大型ショッピングセンター」は40代、「惣菜・弁当店」は50代が高い。
- ・居住地別では、「大型ショッピングセンター」は旭町・下舌辛・仲町と郊外地域、「食品スーパー」「惣菜・弁当店」「衣料品店」コンビニは富士見・中央、「雑貨店」は郊外地域が高い
- 阿寒町にほしい飲食店は、第1位「ファミリーレストラン」4割強、2位「ラーメン店」2割、3位「喫茶店」2割、4位「居酒屋」2割弱の順
- ・年代別では、「ラーメン店」は39歳以下、「ファミリーレストラン」「喫茶店」「居酒屋」は40代、「ファーストフード」は50代以下が高い
- その他“ベーカリー”や“カフェ”を望む意見が多くあげられている。こういった小商圈を対象とした飲食ビジネスの可能性を検討してはどうだろうか。

★商工会への要望(自由回答)として、車の運転ができなくなった時の不安を訴える意見が多くみられた。

調査結果をもとに現状と課題を下図に整理した。



Ⅲ 調査結果の詳細

1. 買い物頻度

(1) 季節による買い物頻度の違い

問1. あなたはどのくらいの頻度で買い物に行かれますか。夏期と冬期に分けてお答えください。【ひとつずつ】

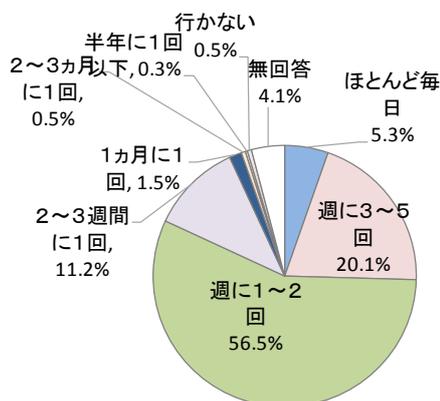
買い物の頻度は、夏期では「週に1～2回」が6割弱を占め最も高く、次いで「週に3～5回」2割の順で、これに「ほとんど毎日」を合わせた“週に1回以上”の人が82%を占める。

冬期では、“週に1回以上”が77%で、夏期より若干頻度は少ない。

年代別にみると、“週に1回以上”は夏期、冬期とも概ね若年層ほど高い。

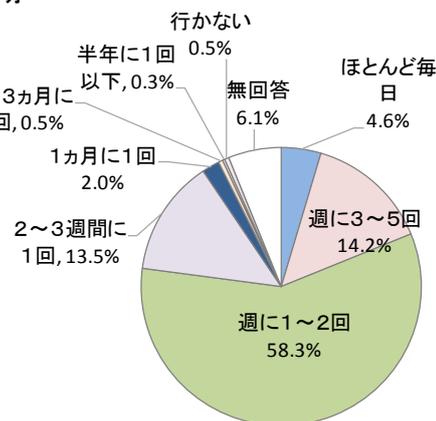
世帯人員別にみると、“週に1回以上”は夏期、冬期とも家族人数が多い世帯ほど高い。

夏期



全体(N=393)

冬期



全体(N=393)

	夏期 (%)							週1回以上	冬期 (%)							週1回以上
	ほとんど毎日	週に3～5回	週に1～2回	2～3週間に1回	1か月に1回	行かない	無回答		ほとんど毎日	週に3～5回	週に1～2回	2～3週間に1回	1か月に1回	行かない	無回答	
全体(N=393)	5.3	20.1	56.5	11.2	2.3	0.5	4.1	81.9	4.6	14.2	58.3	13.5	2.8	0.5	6.1	77.1
39歳以下(N=29)	6.9	6.9	79.3	3.4	3.4	0.0	0.0	93.1	6.9	3.4	79.3	6.9	3.4	0.0	0.0	89.7
40～49歳(N=35)	22.9	20.0	48.6	5.7	0.0	0.0	2.9	91.4	17.1	20.0	54.3	2.9	2.9	0.0	2.9	91.4
50～59歳(N=61)	8.2	34.4	47.5	8.2	0.0	0.0	1.6	90.2	8.2	21.3	55.7	11.5	0.0	0.0	3.3	85.2
60～69歳(N=100)	2.0	15.0	62.0	13.0	3.0	2.0	3.0	79.0	2.0	14.0	60.0	16.0	3.0	2.0	3.0	76.0
70歳以上(N=163)	2.5	20.9	55.2	12.9	3.1	0.0	5.5	78.5	1.8	12.9	56.4	16.0	3.7	0.0	9.2	71.2
1人暮らし(N=81)	2.5	14.8	60.5	12.3	4.9	0.0	4.9	77.8	3.7	9.9	55.6	17.3	2.5	0.0	11.1	69.1
2人(N=159)	3.8	20.8	58.5	12.6	1.3	0.0	3.1	83.0	3.8	14.5	58.5	16.4	3.1	0.0	3.8	76.7
3人以上(N=141)	9.2	22.7	51.8	8.5	2.1	1.4	4.3	83.7	6.4	16.3	59.6	8.5	2.8	1.4	5.0	82.3

※年齢および家族人数別の無回答は数表から割愛した。以下同様。

(2) 以前と比べて買い物頻度の増減

問2. 以前と比べて買い物に出かける頻度は増えていますか、減っていますか。【ひとつだけ】

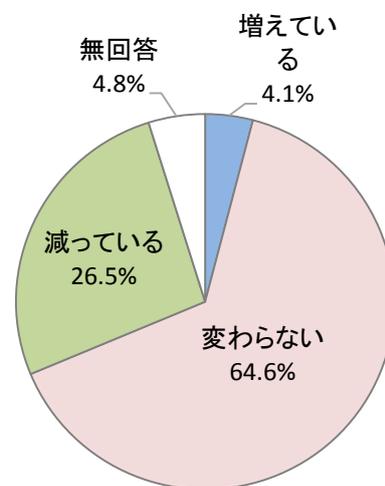
以前と比べて買い物の頻度は、「変わらない」が6割強を占めるが、「減っている」と「増えている」を比べると、「減っている」人が「増えている」人を大きく上回っている。

年代別にみると、「増えている」は39歳以下が高く、「変わらない」は40～49歳が高い。逆に「減っている」は60歳以上が高い。

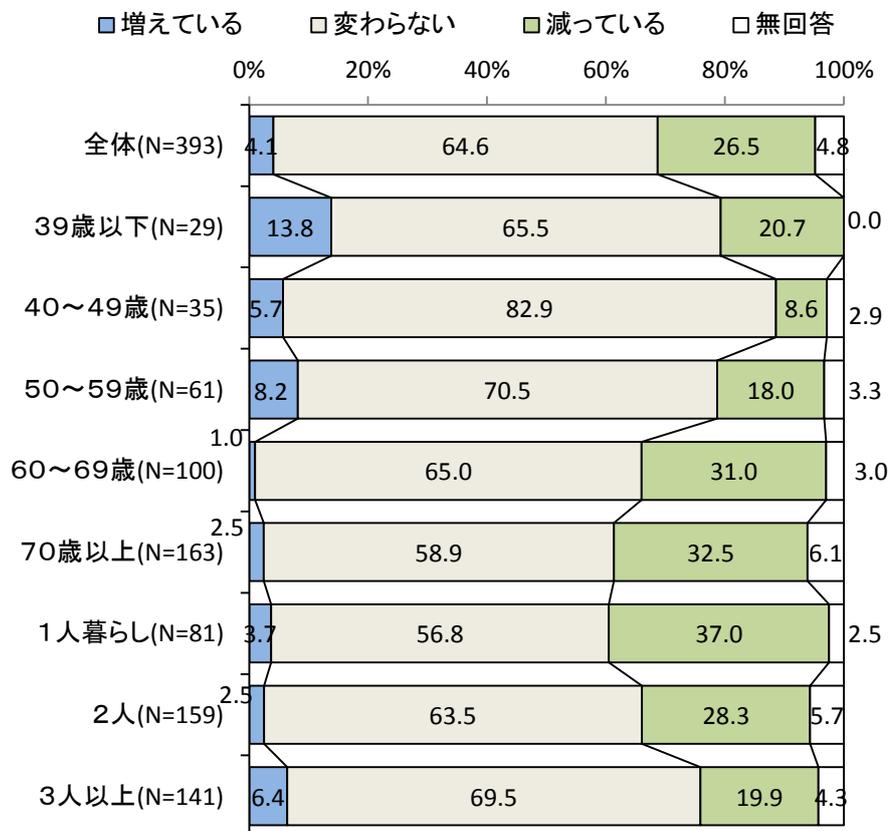
世帯人員別にみると、「増えている」は大きな違いはみられないが、「減っている」は人数の少ない世帯ほど高い。

買い物頻度の増減

全体(N=393)



買い物頻度の増減



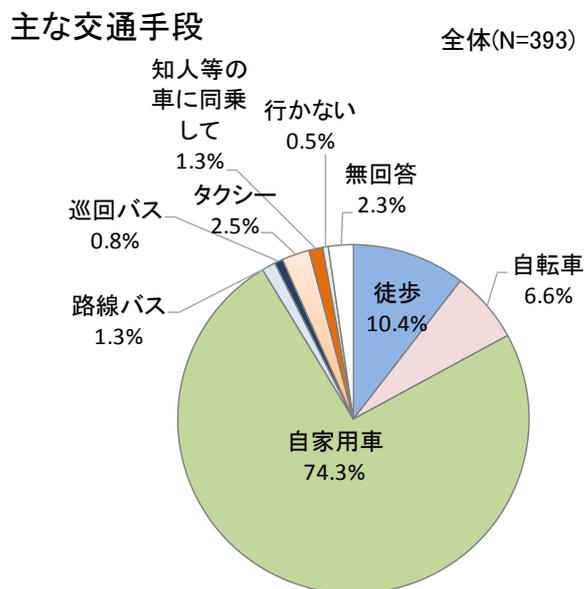
(3) ふだんの買い物に使う主な交通手段

問3. ふだんの買い物に使う主な交通手段をお知らせください。【ひとつだけ】

ふだんの買い物に使う主な交通手段は、「自家用車」が7割強を占め最も高い。次いで「徒歩」1割となっている。

年代別にみると、どの年代でも「自家用車」が最も高いが、「徒歩」は70歳以上で2割弱を占め高い。

世帯人員別にみると、「自家用車」は3人以上が高く、1人暮らしでは5割強と低い。1人暮らしでは「徒歩」が高い。



(%)

	徒歩	自転車	自家用車	路線バス	巡回バス	タクシー	知人等の車に同乗して	行かない	無回答
全体(N=393)	10.4	6.6	74.3	1.3	0.8	2.5	1.3	0.5	2.3
39歳以下(N=29)	6.9	3.4	89.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
40～49歳(N=35)	2.9	8.6	88.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
50～59歳(N=61)	6.6	4.9	83.6	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	1.6
60～69歳(N=100)	4.0	6.0	87.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
70歳以上(N=163)	17.8	8.0	58.9	2.5	0.6	6.1	3.1	0.6	2.5
1人暮らし(N=81)	22.2	8.6	51.9	4.9	0.0	6.2	4.9	0.0	1.2
2人(N=159)	10.1	4.4	78.6	0.6	0.6	2.5	0.6	0.6	1.9
3人以上(N=141)	5.0	7.8	83.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	2.8

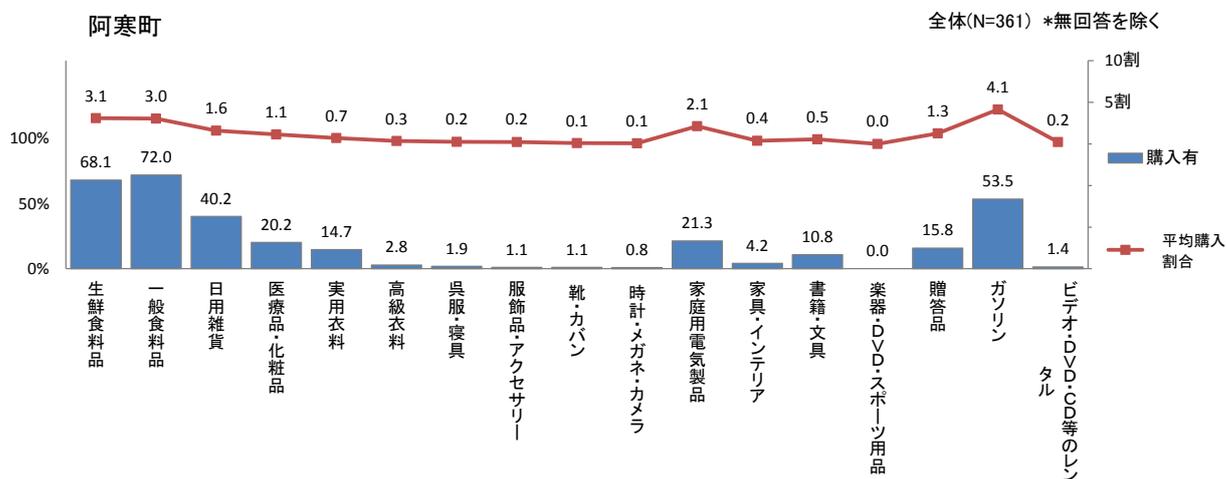
2. 商品の購買行動

(1) 阿寒町内での購入状況

問4. 次の a～q の商品をそれぞれどこでお買いになりますか。最近1年間の購買地別の買い物金額の割合を横の合計が10割になるように記入してください。

商品ごとにどの地域の店で買うかを聞いた。下のグラフは、各商品を「買う」と答えた人(棒グラフ)と全体を10割として阿寒町内で何割を買うか(折れ線グラフ)を示したものである。

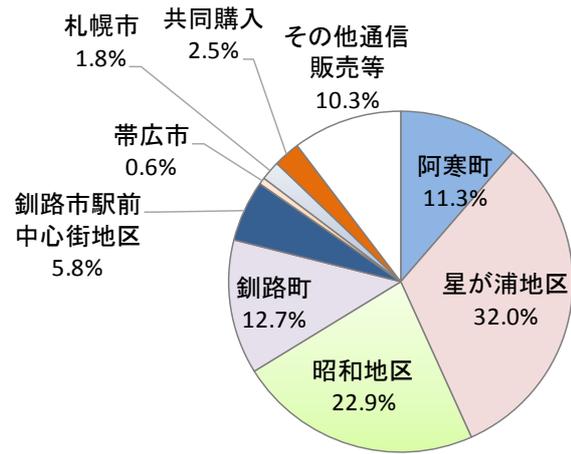
「生鮮食料品」「一般食料品」「ガソリン」の3品目は5割以上の方が「買う」としている。阿寒町内で購入する割合は、「ガソリン」は4割強、「一般食料品」と「生鮮食料品」は3割強、「家庭用電気製品」は2割強だが、他の項目は2割に満たない。



出向先の割合は、「星が浦地区」が3割強を占め最も高く、次いで「昭和地区」2割強、「阿寒町」と「釧路町」が1割強で続いている。

全体(購買率)

回答者(N=361)



(2)商品別買い物先出向状況

商品ごとに買い物出向先別の購入割合を下表に整理した。

17品目すべて星が浦地区での購入割合が最も高い。特に「ビデオ・DVD・CD等のレンタル」は6.8割を占め高く、次いで「日用雑貨」「医療品・化粧品」が5.3割を占める。

「生鮮食料品」や「一般食料品」などの購入頻度の高い商品でも、阿寒町での購入割合は3割台で、星が浦地区が4割以上となっている。距離的に近いため釧路中心部への流出が多いのだろうが、少しでも町内消費を増やさないと阿寒町の商店が成り立たなくなる。

■品目別平均購入割合

(単位:割)

回答者(N=361)	阿寒町	星が浦地区	昭和地区	釧路町	釧路市駅前中心街地区	帯広市	札幌市	共同購入	その他通信販売等
生鮮食料品(N=344)	3.1	4.3	1.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.7	0.4
一般食料品(N=349)	3.0	4.3	1.0	0.3	0.2	0.0	0.0	0.8	0.4
日用雑貨(N=334)	1.6	5.3	1.3	0.4	0.3	0.0	0.0	0.6	0.5
医療品・化粧品(N=322)	1.1	5.3	1.4	0.2	0.5	0.1	0.0	0.3	1.1
実用衣料(N=311)	0.7	3.0	3.1	1.0	0.5	0.1	0.1	0.3	1.1
高級衣料(N=120)	0.3	1.4	3.2	1.6	0.7	0.2	1.1	0.1	1.5
呉服・寝具(N=145)	0.2	2.0	3.1	2.3	0.5	0.2	0.1	0.5	1.1
服飾品・アクセサリ(N=109)	0.2	1.7	3.2	1.6	0.4	0.2	0.7	0.1	1.9
靴・カバン(N=233)	0.1	2.1	3.6	1.4	0.6	0.1	0.6	0.1	1.5
時計・メガネ・カメラ(N=161)	0.1	1.9	3.9	1.7	1.1	0.1	0.2	0.0	1.0
家庭用電気製品(N=245)	2.1	2.2	2.7	0.5	0.9	0.0	0.1	0.1	1.4
家具・インテリア(N=130)	0.4	1.9	1.6	3.4	1.0	0.0	0.1	0.1	1.5
書籍・文具(N=237)	0.5	3.6	2.8	1.0	0.7	0.0	0.0	0.2	1.2
楽器・DVD・スポーツ用品(N=133)	0.0	1.4	2.3	4.2	0.7	0.0	0.2	0.1	1.2
贈答品(N=214)	1.3	2.5	3.2	1.0	0.7	0.0	0.0	0.3	1.1
ガソリン(N=316)	4.1	4.8	0.4	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.1
ビデオ・DVD・CD等のレンタル(N=105)	0.2	6.8	1.1	0.6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.6

下表は「平成26年 家計調査年報」をもとに、品目別の消費額を推計したものである。

＜世帯平均＞

家計調査年報によると、例えば北海道における生鮮食料品の1世帯平均年間消費額は184,915円、これがそのまま阿寒町にもあてはまるとする。

今回の調査結果では、生鮮食料品は阿寒町で3.1割、阿寒町以外の釧路市で5.5割、それ以外の地域で1.4割を購入している。年間消費額184,915円にこの割合を掛けて、地域別の消費金額を割り出した。阿寒町では57,302円消費されていることになる。

このような計算を生鮮食料品～ガソリンまでの16品目で行い、全品目を合計すると960,673円となり、うち阿寒町での消費額は223,935円となる。参考までに最寄り品は689,044円のうち、181,826円が阿寒町内で消費され、買回品に関しては、200,135円のうち阿寒町で消費されるのはわずかに12,561円に過ぎない。

16品目の合計で町内消費は23.3%と2割強で、阿寒町以外の釧路市に約6割が流出している。

阿寒町全体ではどの程度の消費額になるかを計算した。(次頁)

品目	北海道		地域別購入割合			地域別消費金額		
	品目構成比	年間消費額	阿寒町	阿寒町以外の釧路市	それ以外	阿寒町	阿寒町以外の釧路市	それ以外の地域
生鮮食料品	19.2	184,915	3.1	5.5	1.4	57,302	102,563	25,050
一般食料品	37.0	354,988	3.0	5.5	1.4	107,615	196,006	51,366
日用雑貨	4.2	40,806	1.6	6.9	1.5	6,487	28,222	6,096
医療品・化粧品	6.9	66,463	1.1	7.2	1.7	7,513	47,928	11,022
実用衣料	4.4	41,872	0.7	6.6	2.7	2,908	27,574	11,390
高級衣料	3.7	35,570	0.3	5.2	4.5	1,215	18,526	15,829
呉服・寝具	1.0	9,143	0.2	5.6	4.2	227	5,114	3,802
服飾品・アクセサリー	0.2	1,711	0.2	5.4	4.4	39	917	755
靴・カバン	2.2	21,603	0.1	6.2	3.7	185	13,500	7,918
時計・メガネ・カメラ	1.6	15,442	0.1	7.0	3.0	125	10,733	4,585
家庭用電気製品	3.3	31,886	2.1	5.8	2.1	6,781	18,377	6,729
家具・インテリア	1.2	11,261	0.4	4.5	5.1	424	5,093	5,743
書籍・文具	5.0	47,768	0.5	7.1	2.4	2,620	33,720	11,428
楽器・DVD・スポーツ用品	1.9	18,239	0.0	4.4	5.6	0	8,077	10,162
贈答品	0.8	7,512	1.3	6.3	2.4	944	4,735	1,832
ガソリン	7.4	71,494	4.1	5.5	0.4	29,548	39,367	2,579
	100.0	960,673				223,935	560,451	176,286
						23.3%	58.3%	18.4%
(再掲)								
最寄り品(生鮮～実用衣料)		689,044	1.9	6.4	1.7	181,826	402,293	104,925
買回品(高級～贈答品)		200,135	0.5	5.7	3.7	12,561	118,791	68,782
*外食		117,297	0.5	5.7	3.7	6,211	67,371	43,715
合計		1,006,476				200,598	588,455	217,423

阿寒町世帯数	2,558世帯
阿寒町全世帯消費額*	2,575百万円

513百万円	1,505百万円	556百万円
--------	----------	--------

年間消費額: 家計調査年報H26年

世帯数: 阿寒町統計H29年3月末

注1: 外食の地域別購入割合は「買回品」の比率を用いて推計した。

注2: 町全世帯消費額には「外食」を含む

<阿寒町全体>

前ページの計算は、1世帯平均である。そこで、前ページの表に阿寒町の世帯数 2,558(平成 29 年3月末)を掛け阿寒町の全世帯における消費額を計算した。外食を除いた 16 品目で合計 24 億 5,700 万円となる。このうち町内で消費されるのが 5 億 7,300 万円、町外が 18 億 8,500 万円、町外の中では阿寒町以外の釧路市が 14 億 3,400 万円と大きい。

品目別にみると、阿寒町外で消費される品目は「一般食料品」6億 3,300 万円、「生鮮食料品」3 億 2,600 万円と合わせると10億円近くにのぼる。これに対して町内消費は4億円強と半分以下である。

■全体

(単位:百万円)

品目	合計	消費金額			
		阿寒町	町外計	内訳	
				阿寒町以外 の釧路市	それ以外 の地域
生鮮食料品	473	147	326	262	64
一般食料品	908	275	633	501	131
日用雑貨	104	17	88	72	16
医療品・化粧品	170	19	151	123	28
実用衣料	107	7	100	71	29
高級衣料	91	3	88	47	40
呉服・寝具	23	1	23	13	10
服飾品・アクセサリ	4	0	4	2	2
靴・カバン	55	0	55	35	20
時計・メガネ・カメラ	40	0	39	27	12
家庭用電気製品	82	17	64	47	17
家具・インテリア	29	1	28	13	15
書籍・文具	122	7	115	86	29
楽器・DVD・スポーツ用品	47	0	47	21	26
贈答品	19	2	17	12	5
ガソリン	183	76	107	101	7
合計	2,457	573	1,885	1,434	451
構成比		23.3%	76.7%	58.3%	18.4%
(再掲)					
最寄品(生鮮~実用衣料)	1,763	465	1,297	1,029	268
買回品(高級~贈答品)	512	32	480	304	176

阿寒町世帯数

2,558世帯

今回外食は調査項目に含めていないが、参考までに外食も買回品と同じ割合とすると、阿寒町の 2,558 世帯で全消費額 25 億 7,500 万円のうち町での消費は5億 1,300 万円に過ぎない。阿寒町以外の釧路市に 15 億 500 万円が流出している。

比較的地元消費が強い食料品あるいは外食の中から町外への流出を食い止めることのできるアイテムがないかも一度検討する必要がある。

3. 阿寒町での買い物頻度

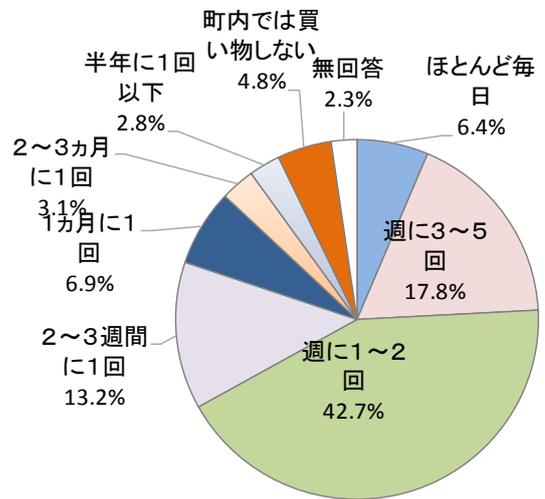
問5. あなたは、阿寒町内でどの程度買い物なさいますか。【ひとつだけ】

阿寒町での買い物頻度は、「週に1～2回」が43%、「週に3～5回」が18%、これに「ほとんど毎日」を合わせた“週に1回以上”が7割弱を占める。

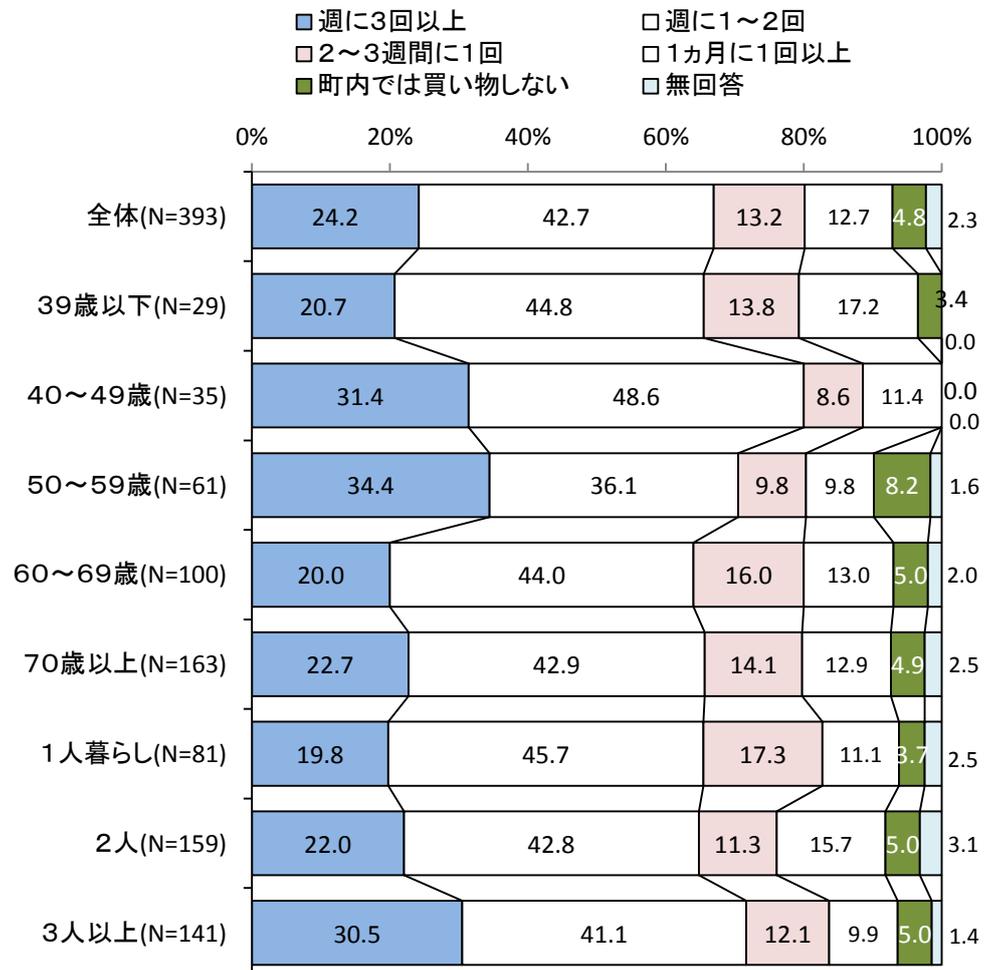
年代別にみると、“週に1回以上”は40～49歳が最も高い。

世帯人員別にみると、“週に1回以上”は3人以上が高い。

阿寒町内での買い物頻度 全体(N=393)



阿寒町での買い物頻度



4. 阿寒町内での買い物の不便感とその理由

(1) 買い物の不便感

問6. あなたは、阿寒町内での買い物について不便を感じていますか。【ひとつだけ】

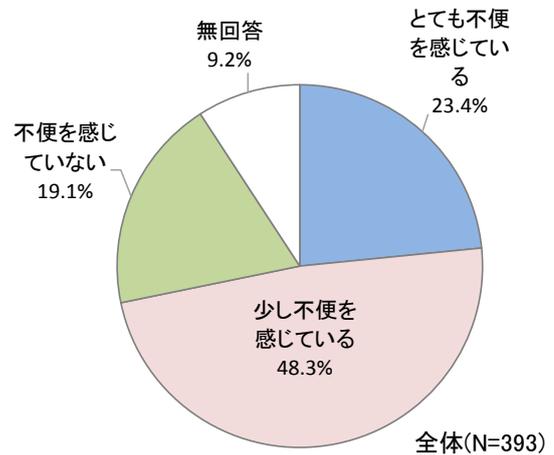
阿寒町内での買い物に、「とても不便を感じている」2割強と「少し不便を感じている」5割弱を合わせた“不便を感じている”人は7割強を占める。これに対して「不便を感じていない」は2割となっている。

年代別にみると、「とても不便を感じている」は39歳以下が最も高く、次いで50代が高い。

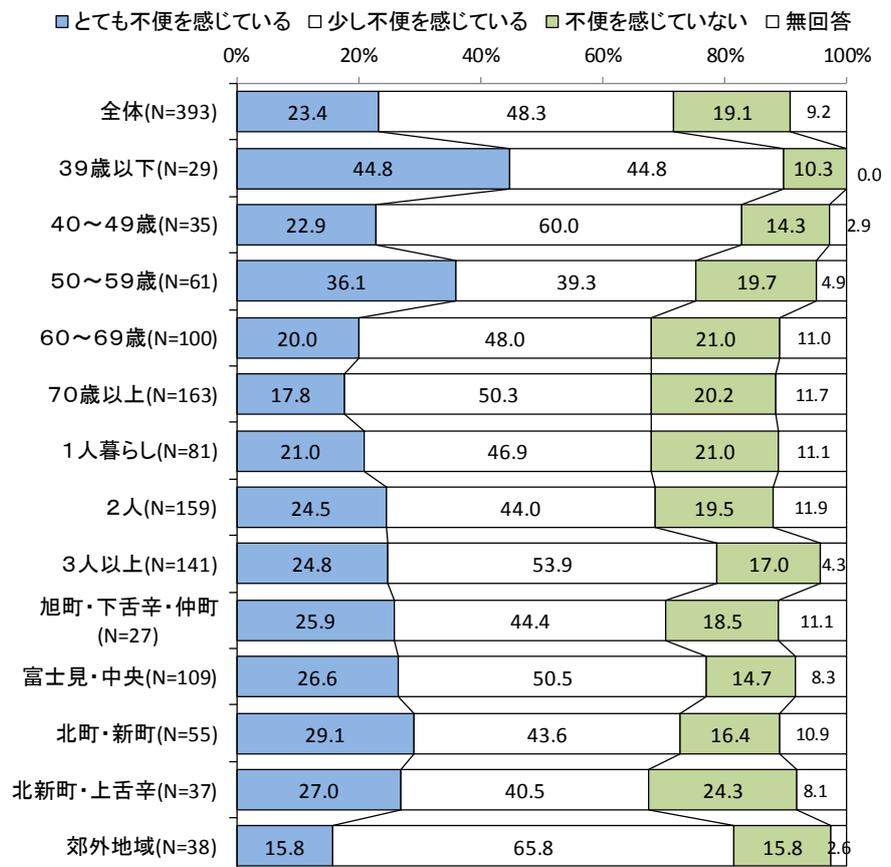
世帯人員別にみると、“不便を感じている”は3人以上が最も高い。

居住地別にみると、「とても不便を感じている」は北町・新町が最も高く、“不便を感じている”は郊外地域と富士見・中央が高い。

阿寒町内での買い物の不便感



阿寒町での買い物の不便感



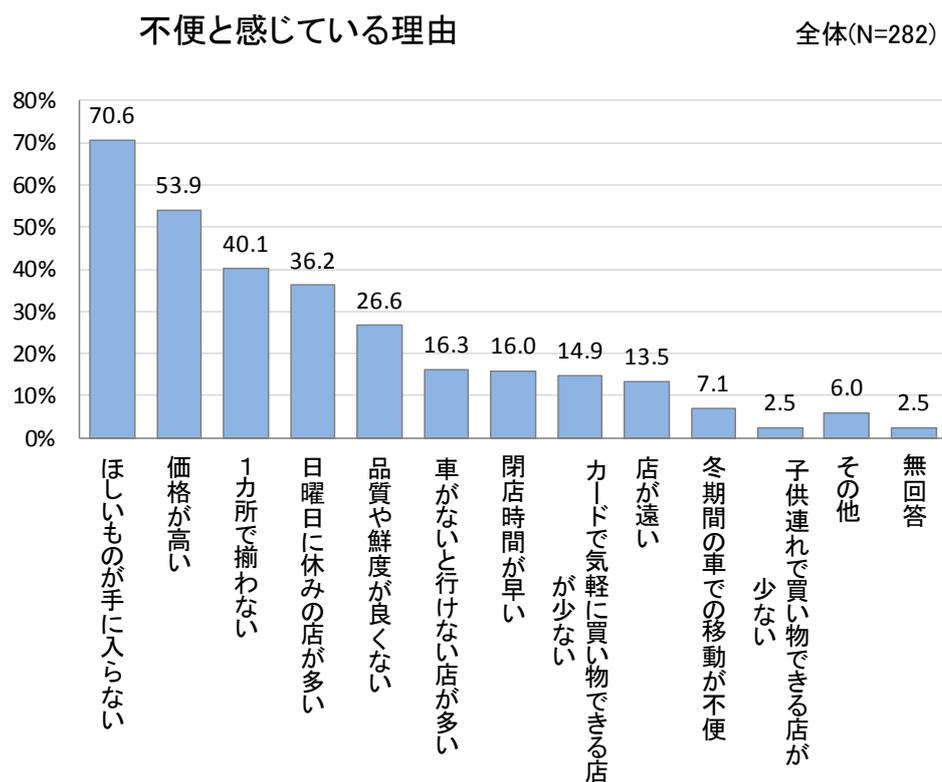
*地区別の「無回答」(N=127)はグラフから割愛した。

(2) 不便と感じている理由

問 6-1. 具体的にどのような点に不便を感じますか。【いくつでも】

“不便を感じている”と回答した人(282人)に、具体的に不便な点を聞いたところ、第1位「ほしいものが手に入らない」が7割を占め最も高い。次いで2位「価格が高い」5割強、3位「1カ所で揃わない」4割、4位「日曜日に休みの店が多い」4割弱の順となっている。

不便を感じるのは「ほしいものが手に入らない」、つまり自分のニーズに合った商品が見つからないという理由が1位である。



※性別、年代別、居住地別は次頁。

性別にみると「価格が高い」は男性が女性を上回っている。

年代別にみると、「ほしいものが手に入らない」は40代と60代、「価格が高い」は40代、「1カ所で揃わない」と「品質や鮮度が良くない」は39歳以下、「日曜日に休みの店が多い」は60代、「車がないと行けない店が多い」と「店が遠い」は70歳以上、「閉店時間が早い」は39歳以下と50代が高い。

家族人数別にみると、「ほしいものが手に入らない」「価格が高い」「1カ所で揃わない」は2人が高い。また、「車がないと行けない店が多い」は1人暮らしが高い。

居住地別にみると、「価格が高い」は旭町・下舌辛・仲町と富士見・中央、「1カ所で揃わない」「日曜日に休みの店が多い」「品質や鮮度が良くない」はいずれも旭町・下舌辛・仲町、「車がないと行けない店が多い」と「店が遠い」郊外地域がそれぞれ高い。

(%)

	ほしいものが手に入らない	価格が高い	1カ所で揃わない	日曜日に休みの店が多い	品質や鮮度が良くない	車がないと行けない店が多い	閉店時間が早い	カードで気軽に買物できる店が少ない	店が遠い	冬期間の車の移動が不便	子供連れで買い物できない	その他	無回答
全体(N=282)	70.6	53.9	40.1	36.2	26.6	16.3	16.0	14.9	13.5	7.1	2.5	6.0	2.5
男性(N=69)	75.4	60.9	46.4	33.3	26.1	15.9	23.2	7.2	5.8	8.7	2.9	2.9	1.4
女性(N=207)	70.0	51.2	39.1	37.2	26.6	16.9	14.0	17.9	16.4	6.8	2.4	7.2	2.9
39歳以下(N=26)	73.1	53.8	53.8	19.2	38.5	3.8	26.9	23.1	7.7	3.8	3.8	15.4	0.0
40～49歳(N=29)	82.8	65.5	34.5	34.5	24.1	20.7	20.7	20.7	10.3	6.9	6.9	0.0	3.4
50～59歳(N=46)	71.7	52.2	43.5	30.4	32.6	6.5	26.1	10.9	4.3	2.2	2.2	6.5	0.0
60～69歳(N=68)	82.4	45.6	44.1	47.1	29.4	13.2	11.8	20.6	10.3	4.4	0.0	5.9	4.4
70歳以上(N=111)	59.5	56.8	35.1	36.9	20.7	24.3	10.8	9.9	21.6	11.7	2.7	5.4	2.7
1人暮らし(N=55)	67.3	38.2	36.4	34.5	23.6	25.5	14.5	9.1	29.1	9.1	0.0	9.1	1.8
2人(N=109)	76.1	61.5	46.8	37.6	26.6	15.6	16.5	16.5	11.0	6.4	1.8	3.7	2.8
3人以上(N=111)	69.4	53.2	36.0	35.1	27.9	13.5	15.3	17.1	9.0	6.3	4.5	7.2	1.8
旭町・下舌辛・仲町(N=19)	73.7	63.2	68.4	47.4	47.4	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5	0.0	10.5	0.0
富士見・中央(N=84)	73.8	61.9	42.9	28.6	27.4	19.0	20.2	17.9	13.1	8.3	1.2	6.0	4.8
北町・新町(N=40)	75.0	42.5	30.0	42.5	30.0	10.0	22.5	17.5	17.5	2.5	5.0	5.0	0.0
北新町・上舌辛(N=25)	72.0	52.0	40.0	32.0	16.0	12.0	12.0	20.0	12.0	16.0	0.0	4.0	4.0
郊外地域(N=31)	61.3	25.8	29.0	41.9	9.7	48.4	3.2	6.5	29.0	16.1	0.0	9.7	0.0

5. 買い物支援サービスのニーズ

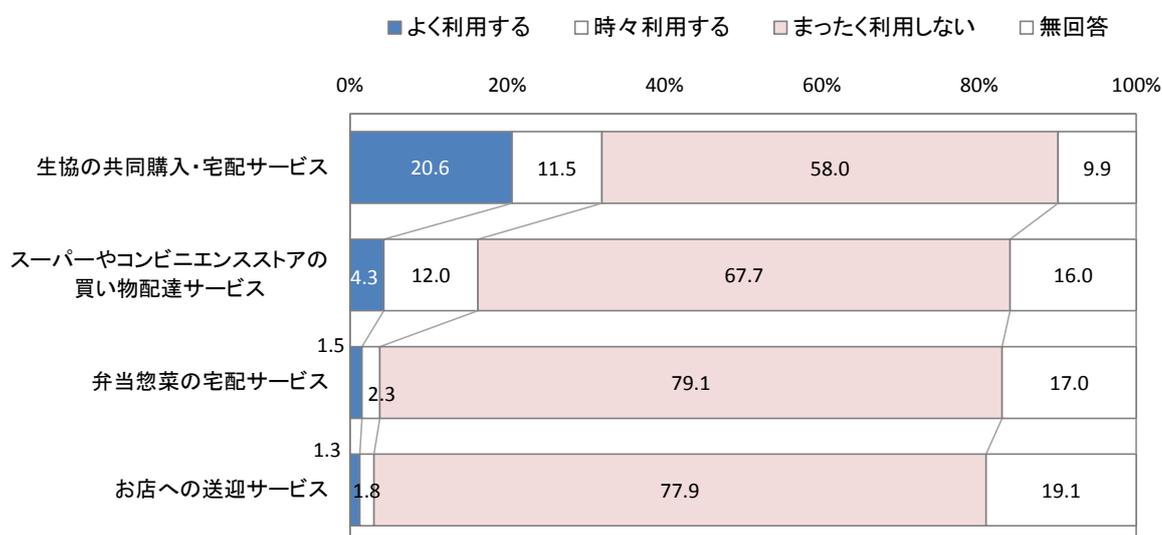
問7. 次の買い物支援サービスをどの程度ご利用なさいますか。【ひとつずつ】

買い物支援サービスについて「よく利用する」と「時々利用する」を合わせた“利用する”が高い順に並べると下図のようになる。

第1位「生協の共同購入・宅配サービス」3割強、2位「スーパーやコンビニエンスストアの買い物配達サービス」2割弱が高い。これに対して「弁当惣菜の宅配サービス」と「お店への送迎サービス」は「まったく利用しない」が8割近くを占める。

買い物支援サービスの利用意向

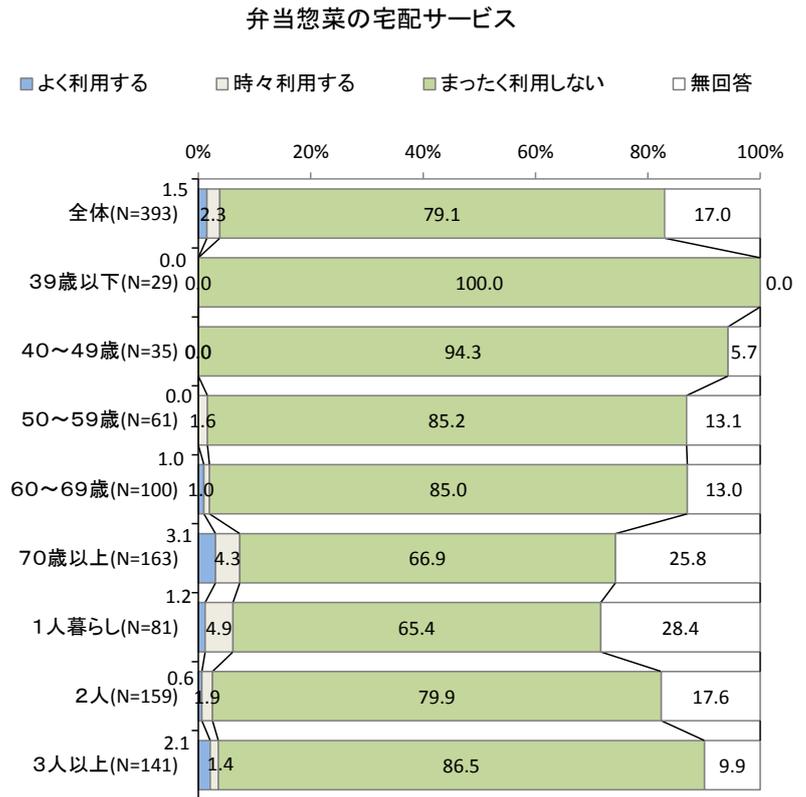
全体(N=393)



*「よく利用する」と「時々利用する」=“利用する”の高い順

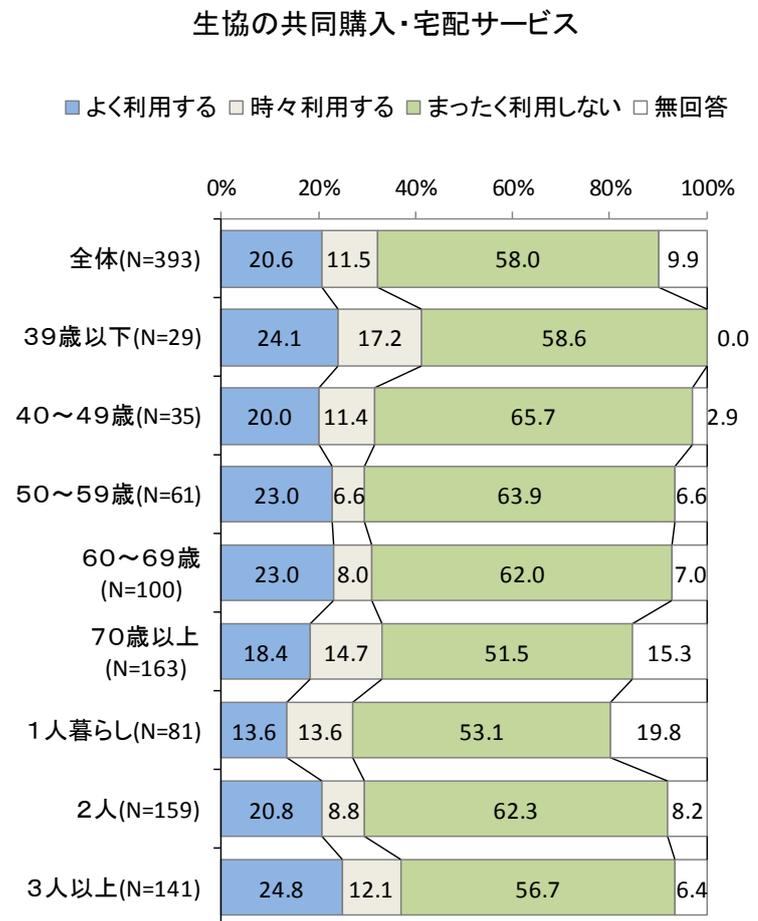
a. 弁当惣菜の宅配サービス

年代別にみると、“利用する”は70歳以上がやや高い。
 家族人数別にみると、1人暮らしがやや高い。



b. 生協の共同購入・宅配サービス

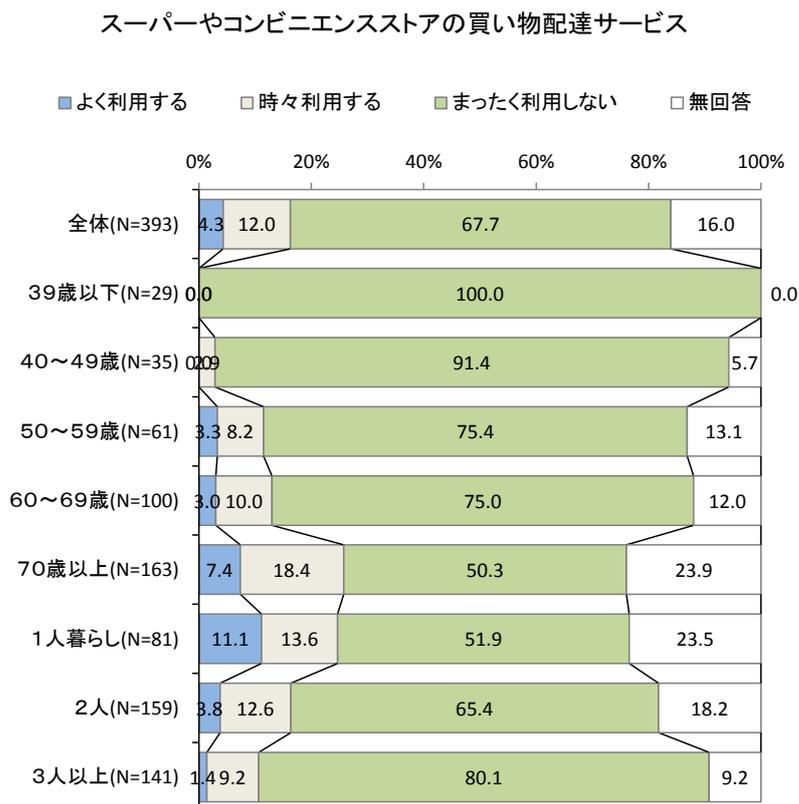
年代別にみると、“利用する”は39歳以下が高い。
 家族人数別にみると、人数が増えるほど高くなる。



c. スーパーやコンビニエンスストアの買い物配達サービス

年代別にみると、“利用する”は年代が上がるほど高くなり、特に70歳以上では3割近くにのぼる。

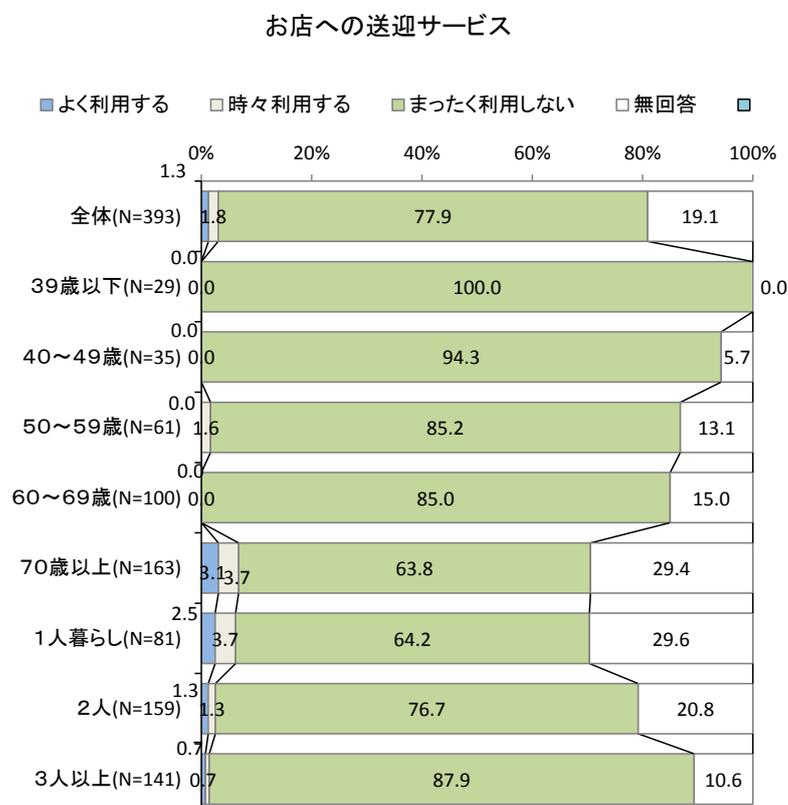
家族人数別にみると、人数が少ないほど高くなる。



d. お店への送迎サービス

年代別にみると、“利用する”は違いがみられないが、「まったく利用しない」は40代以下が9割を超え高く、39歳以下では10割にのぼる。

家族人数別にみると、「まったく利用しない」は人数が増えるほど高くなる。



6. 阿寒町の商業活性化に必要なこと

問8. 阿寒町の商業を活性化するためにどのようなことが必要だと思いますか。【いくつでも】

阿寒町の商業活性化に必要なこととしては、第1位「品揃えの増加」5割弱、2位「手頃な価格設定」4割強、3位「鮮度や品質の改善」3割強の順である。

商業活性化に必要なこととして「品揃えの増加」が1位になっており、また不便を感じることで「ほしいものが手に入らない」が1位になっていることと対応する。

阿寒町商業を活性化するために必要なこと



その他
カードが使えないからコンビニへ行く
クレジットカードの利用
店舗数の増加、店がない、スーパー不足
ホームセンター
大型店舗
店内通路スペース、ATM、町民の就職率を上げる、大型店の誘致
中高生が集まれる場所
他にない獨創性
明るい外観や看板の統一
駐車場
阿寒町内循環バス
赤ベレーの送迎があればよい
転入してきた人にどんな店があるのか、やっている店なのかわかるように
阿寒町をもっと活性化してほしい
住民が地元へ気持ちを向けてほしい

性別にみると、「手頃な価格設定」と「ポイントカード等特典の充実」は女性、「閉店時間の延長」は男性が、それぞれ他を上回っている。

年代別にみると、「品揃えの増加」「手頃な価格設定」「空き店舗の積極的活用」は49歳以下、「鮮度や品質の改善」「日曜日の営業」「店の設備や雰囲気改善」「新製品や流行品の充実」「セール等のイベントの開催」「子供の遊び場や託児施設の設置」は39歳以下、「閉店時間の延長」は50代と39歳以下が高い。

世帯人員別にみると、「品揃えの増加」は2人以上、「手頃は価格」「ポイントカード等特典の充実」「子供の遊び場や託児施設の設置」は3人以上が高い。

居住地別にみると、「品揃えの増加」「新製品や流行品の充実」は富士見・中央、「手頃な価格」「ポイントカード等特典の充実」は北新町・上舌辛、「鮮度や品質の改善」「日曜日の営業」「空き店舗の積極的活用」「配達サービスの充実」「閉店時間の延長」は北町・新町が高い。

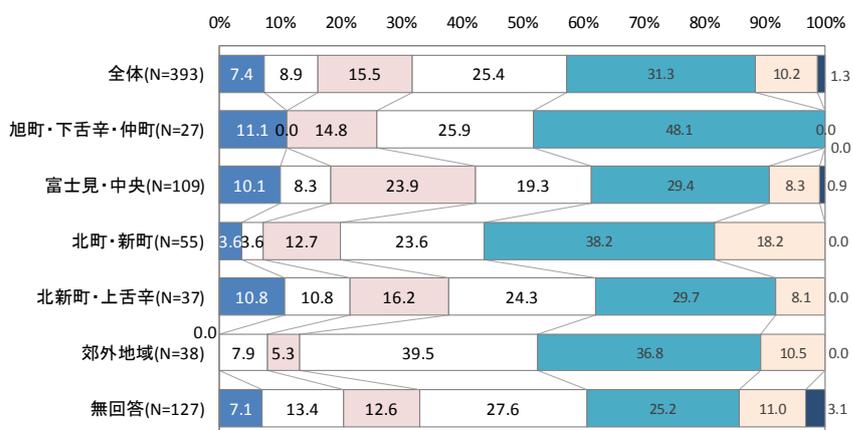
このように年代別では39歳以下、家族人数別では3人以上、地域別では北町・新町、富士見・中央地区で高い項目が多い。

実際に居住地別の年齢構成をみると、富士見・中央は若年層が多いが、北町・新町は必ずしも若年層が多いわけではない。つまり、別の要因があるから要望が多いのだろう。

	品揃えの増加	手頃な価格設定	鮮度や品質の改善	日曜日の営業	空き店舗の積極的活用	配達サービスの充実	店の設備や雰囲気改善	ポイントカード等特典の充実	接客の改善	新製品や流行品の充実	送迎サービスの充実	休憩場所やベンチの設置	移動販売の充実	閉店時間の延長	チラシ等の情報提供の充実	セール等のイベント	商店街を利用した交流促進	サークルや文化活動の場の提供	子供の遊び場や託児施設	インターネットでの注文受付
全体(N=393)	45.8	43.5	34.1	25.4	23.4	21.6	20.4	19.3	15.3	13.7	13.5	13.2	12.5	10.7	8.7	7.4	5.9	5.3	5.1	2.5
男性(N=100)	44.0	37.0	30.0	29.0	20.0	22.0	20.0	13.0	13.0	14.0	10.0	11.0	9.0	17.0	12.0	8.0	1.0	3.0	4.0	3.0
女性(N=285)	47.0	46.3	35.4	24.2	25.3	22.1	20.7	21.4	16.1	13.7	15.1	13.7	14.0	8.8	7.7	7.4	7.7	6.0	5.6	2.5
39歳以下(N=29)	69.0	69.0	44.8	31.0	37.9	20.7	44.8	24.1	13.8	31.0	10.3	10.3	6.9	20.7	17.2	20.7	6.9	0.0	31.0	3.4
40~49歳(N=35)	57.1	68.6	40.0	20.0	42.9	22.9	17.1	22.9	11.4	11.4	8.6	5.7	14.3	17.1	2.9	2.9	8.6	8.6	11.4	2.9
50~59歳(N=61)	47.5	39.3	36.1	27.9	23.0	23.0	26.2	11.5	16.4	19.7	16.4	8.2	11.5	24.6	4.9	9.8	0.0	1.6	1.6	8.2
60~69歳(N=100)	48.0	39.0	39.0	24.0	24.0	12.0	22.0	24.0	20.0	13.0	10.0	12.0	8.0	8.0	9.0	4.0	8.0	7.0	2.0	2.0
70歳以上(N=163)	38.0	38.7	27.0	26.4	17.2	27.6	13.5	17.8	12.9	9.8	16.6	17.8	16.6	4.3	9.8	7.4	6.1	6.1	2.5	0.6
1人暮らし(N=81)	39.5	38.3	30.9	27.2	22.2	21.0	18.5	11.1	21.0	9.9	16.0	18.5	12.3	4.9	9.9	4.9	7.4	3.7	2.5	0.0
2人(N=159)	47.8	40.3	35.2	25.8	25.8	24.5	21.4	20.8	15.1	13.2	13.2	10.7	11.9	10.7	10.1	5.7	4.4	6.3	1.9	3.8
3人以上(N=141)	48.9	51.1	36.2	24.8	23.4	19.1	21.3	23.4	12.8	17.0	12.8	11.3	13.5	14.2	6.4	10.6	6.4	5.0	10.6	2.1
旭町・下舌辛・仲町(N=27)	44.4	37.0	29.6	25.9	14.8	22.2	29.6	18.5	29.6	18.5	18.5	7.4	11.1	7.4	18.5	11.1	3.7	0.0	0.0	11.1
富士見・中央(N=109)	56.0	48.6	37.6	24.8	29.4	22.0	26.6	15.6	15.6	21.1	18.3	14.7	10.1	12.8	8.3	11.0	4.6	4.6	4.6	1.8
北町・新町(N=55)	38.2	40.0	40.0	34.5	32.7	29.1	18.2	16.4	18.2	10.9	9.1	14.5	10.9	20.0	7.3	5.5	5.5	7.3	7.3	3.6
北新町・上舌辛(N=37)	43.2	51.4	21.6	16.2	16.2	18.9	13.5	27.0	5.4	8.1	13.5	18.9	10.8	5.4	10.8	10.8	0.0	2.7	5.4	2.7
郊外地域(N=38)																				

居住地別年齢

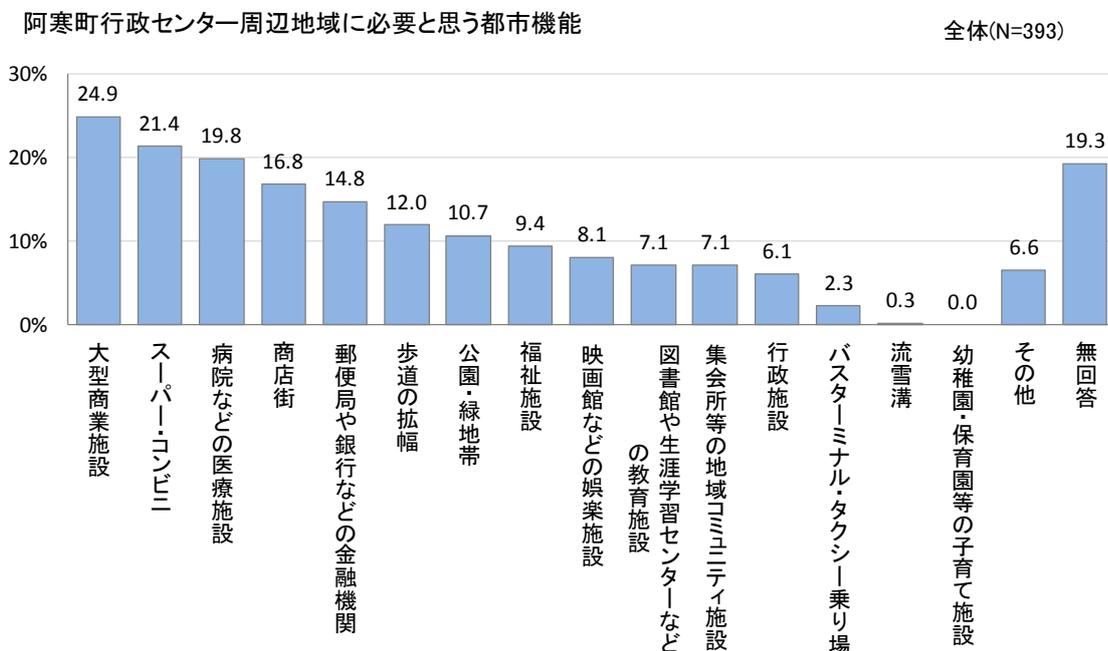
■ 39歳以下 □ 40~49歳 ■ 50~59歳 □ 60~69歳 ■ 70~79歳 □ 80歳以上 ■ 無回答



7. 阿寒町行政センター周辺地域に必要なと思う都市機能

問9. 阿寒町行政センター周辺地域に必要と思う都市機能をお選びください。【3つまで】

阿寒町行政センター周辺地域に必要と思う都市機能は、第1位「大型商業施設」、2位「スーパー・コンビニ」、3位「病院などの医療施設」の順で、以上が2割前後を占める上位項目である。次いで「商店街」「郵便局や銀行などの金融機関」と続いている。



その他
ドラッグストア
飲食店
女性が入りやすい飲食店
駐車場
スポーツジム
駅
法務関係の事務所
バスの便が悪い
車イスでの交通と買い物
タクシーの時間を広げてほしい
歩道がデコボコで車いす利用時は不快である
歩道が悪い、凸凹整備
歩道の拡幅より改修をしてほしい
若いお母さんが働けるような託児所
小さい子どもが遊べる場所
親子で集える場所
希望しても人口的に機能していけない事を思うと望んでも無理
現在のままで良いが、店と店がもう少しくっついてほしい
難しい問題です。まずは人を増やすことを考えてほしい
全部揃ってるので行政の投資不要
必要がない、無駄

性別にみても大きな違いはみられない。

年代別にみると、「大型商業施設」「病院などの医療施設」「商店街」「郵便局や銀行などの金融機関」は40代、「スーパー・コンビニ」「行政機関」は39歳以下、「映画館などの娯楽施設」は50代がそれぞれ高い。

世帯人員別にみると、「福祉施設」は2人が高い

居住地別にみると、「大型商業施設」と「スーパー・コンビニ」は郊外地域、「歩道の拡幅」は旭町・下舌辛・仲町が高い。

(%)

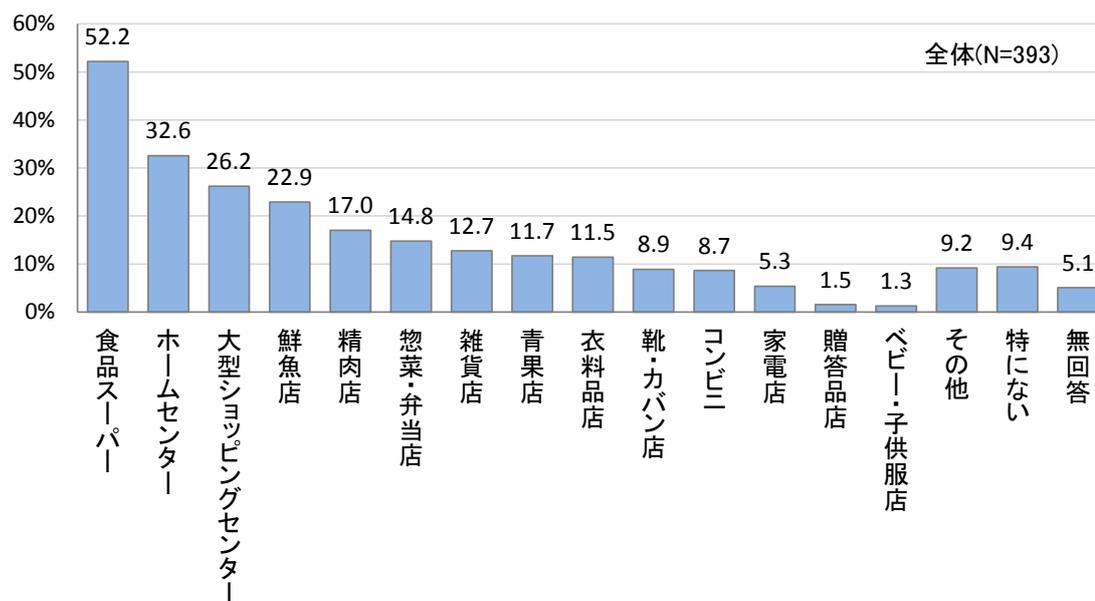
	大型商業施設	スーパー・コンビニ	病院などの医療施設	商店街	郵便局や銀行などの金融機関	歩道の拡幅	公園・緑地帯	福祉施設	映画館などの娯楽施設	図書館や生涯学習センターなどの教育施設	集会所等の地域コミュニティ施設	行政施設	バスターミナル・タクシー乗り場	流雪溝	幼稚園・保育園等の子育て施設	その他	無回答
全体(N=393)	24.9	21.4	19.8	16.8	14.8	12.0	10.7	9.4	8.1	7.1	7.1	6.1	2.3	0.3	0.0	6.6	19.3
男性(N=100)	28.0	19.0	20.0	18.0	14.0	12.0	12.0	13.0	8.0	4.0	5.0	7.0	6.0	1.0	0.0	8.0	20.0
女性(N=285)	24.2	22.8	20.4	16.5	15.4	11.9	10.5	8.4	7.4	8.4	7.7	6.0	1.1	0.0	0.0	6.0	18.6
39歳以下(N=29)	31.0	41.4	20.7	17.2	6.9	10.3	3.4	6.9	6.9	0.0	0.0	17.2	0.0	0.0	0.0	6.9	3.4
40～49歳(N=35)	37.1	28.6	28.6	22.9	25.7	17.1	8.6	5.7	8.6	8.6	5.7	11.4	0.0	0.0	0.0	14.3	11.4
50～59歳(N=61)	24.6	24.6	21.3	18.0	18.0	3.3	11.5	8.2	14.8	11.5	6.6	6.6	3.3	0.0	0.0	4.9	16.4
60～69歳(N=100)	20.0	19.0	14.0	11.0	15.0	10.0	13.0	8.0	6.0	11.0	7.0	8.0	4.0	1.0	0.0	10.0	23.0
70歳以上(N=163)	24.5	17.2	21.5	18.4	12.9	16.0	11.0	12.3	6.7	4.3	8.6	1.8	1.8	0.0	0.0	3.7	21.5
1人暮らし(N=81)	22.2	18.5	19.8	21.0	11.1	11.1	7.4	8.6	7.4	3.7	7.4	2.5	1.2	0.0	0.0	3.7	22.2
2人(N=159)	27.0	21.4	18.9	13.2	16.4	11.3	10.7	15.7	8.2	5.7	5.7	6.9	2.5	0.0	0.0	6.9	18.9
3人以上(N=141)	24.1	23.4	19.9	17.0	15.6	12.1	12.8	2.8	8.5	11.3	7.8	7.8	2.8	0.7	0.0	8.5	18.4
旭町・下舌辛・仲町(N=27)	22.2	18.5	3.7	14.8	7.4	18.5	11.1	14.8	0.0	7.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	25.9
富士見・中央(N=109)	26.6	25.7	22.0	19.3	15.6	15.6	11.0	10.1	8.3	7.3	10.1	6.4	4.6	0.0	0.0	2.8	14.7
北町・新町(N=55)	30.9	21.8	18.2	20.0	10.9	12.7	10.9	5.5	5.5	5.5	10.9	1.8	1.8	0.0	0.0	12.7	14.5
北新町・上舌辛(N=37)	27.0	18.9	18.9	16.2	18.9	8.1	13.5	16.2	8.1	5.4	2.7	8.1	0.0	0.0	0.0	10.8	10.8

8. 阿寒町にほしい物販店

問10. 阿寒町にほしい物販店はどのような店ですか。【いくつでも】

阿寒町にほしい物販店は、第1位「食品スーパー」が5割強を占める。次いで2位「ホームセンター」3割強、3位「大型ショッピングセンター」3割弱、4位「鮮魚店」2割強の順である。

阿寒町にほしい物販店



その他
ドラッグストア(15)
100円ショップ(6)
本屋(3)
ホームマック(2)
コインランドリー(2)
アウトレットモール
DVD、CDのレンタル店
リサイクルショップ
ファーストフード・回転寿司
飲食店
陶器類
カードの使えるスーパー
タクシーの運転代行
不動産業
阿寒町でしか買えない特産品店
一度に用事を済ませる商店街
食料品売り場があるドラッグストア
商売店(コンビニ、道の駅、金融業他の接遇)

性別にみると、「食品スーパー」と「雑貨店」は女性、「ホームセンター」「大型ショッピングセンター」「惣菜・弁当店」は男性が高い。

年代別にみると、「雑貨店」は39歳以下、「食品スーパー」は40代～50代、「大型ショッピングセンター」は40代、「惣菜・弁当店」は50代が高い。

家族人数別にみると、「食品スーパー」は3人以上、「大型ショッピングセンター」と「鮮魚店」2人が高い。

居住地別にみると、「大型ショッピングセンター」は旭町・下舌辛・仲町と郊外地域、「食品スーパー」「惣菜・弁当店」「衣料品店」コンビニは富士見・中央、「雑貨店」は郊外地域が高い。

(%)

	食品スーパー	ホームセンター	大型ショッピングセンター	鮮魚店	精肉店	惣菜・弁当店	雑貨店	青果店	衣料品店	靴・カバン店	コンビニ	家電店	贈答品店	ベビー・子供服店	その他	特にない	無回答
全体(N=393)	52.2	32.6	26.2	22.9	17.0	14.8	12.7	11.7	11.5	8.9	8.7	5.3	1.5	1.3	9.2	9.4	5.1
男性(N=100)	48.0	39.0	32.0	25.0	15.0	21.0	8.0	11.0	11.0	6.0	13.0	7.0	2.0	1.0	6.0	9.0	5.0
女性(N=285)	54.7	30.9	24.2	22.1	17.9	13.0	14.7	11.9	11.9	9.8	7.4	4.9	1.4	1.4	10.5	9.1	4.2
39歳以下(N=29)	58.6	37.9	10.3	17.2	17.2	10.3	20.7	6.9	13.8	3.4	10.3	3.4	0.0	10.3	20.7	6.9	6.9
40～49歳(N=35)	62.9	31.4	34.3	25.7	22.9	17.1	11.4	14.3	11.4	2.9	8.6	5.7	0.0	0.0	31.4	2.9	0.0
50～59歳(N=61)	60.7	32.8	23.0	16.4	18.0	21.3	9.8	11.5	4.9	11.5	9.8	6.6	0.0	1.6	8.2	8.2	3.3
60～69歳(N=100)	47.0	31.0	24.0	22.0	19.0	16.0	7.0	8.0	8.0	6.0	3.0	4.0	1.0	1.0	11.0	9.0	6.0
70歳以上(N=163)	50.3	33.7	30.7	27.0	14.7	12.3	16.6	14.7	16.0	12.3	11.7	6.1	3.1	0.0	1.8	11.0	4.3
1人暮らし(N=81)	50.6	27.2	24.7	16.0	11.1	17.3	9.9	6.2	11.1	4.9	9.9	6.2	3.7	0.0	8.6	13.6	6.2
2人(N=159)	48.4	34.0	31.4	26.4	17.6	13.2	13.8	11.9	11.9	9.4	9.4	6.3	1.3	0.6	7.5	8.8	5.0
3人以上(N=141)	56.7	34.8	22.7	22.0	19.1	15.6	13.5	13.5	12.1	10.6	6.4	4.3	0.7	2.8	12.1	8.5	2.1
旭町・下舌辛・仲町(N=27)	44.4	22.2	37.0	14.8	18.5	3.7	11.1	14.8	3.7	3.7	7.4	3.7	0.0	0.0	7.4	22.2	3.7
富士見・中央(N=109)	59.6	34.9	22.0	21.1	19.3	19.3	16.5	13.8	20.2	11.9	13.8	4.6	0.9	1.8	10.1	7.3	5.5
北町・新町(N=55)	58.2	29.1	18.2	23.6	14.5	14.5	14.5	9.1	5.5	3.6	1.8	5.5	0.0	0.0	10.9	10.9	3.6
北新町・上舌辛(N=37)	51.4	37.8	32.4	24.3	13.5	10.8	2.7	10.8	5.4	13.5	10.8	10.8	5.4	0.0	8.1	5.4	5.4
郊外地域(N=38)	44.7	26.3	34.2	23.7	18.4	7.9	18.4	13.2	15.8	5.3	10.5	7.9	0.0	0.0	5.3	10.5	2.6

9. 阿寒町にほしい飲食店

問11. 阿寒町にほしい飲食店はどのような店ですか。【いくつでも】

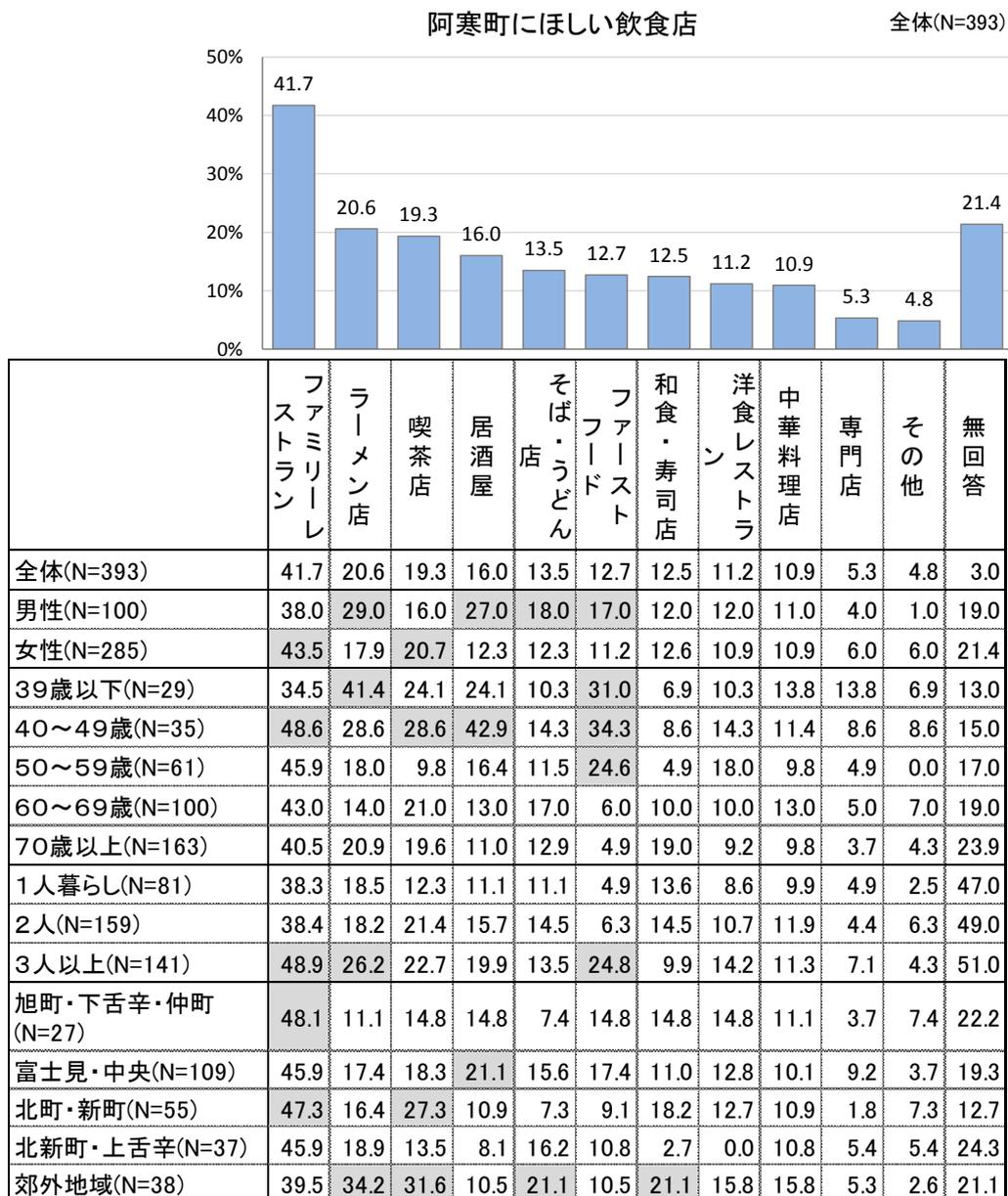
阿寒町にほしい飲食店は、第1位「ファミリーレストラン」4割強、2位「ラーメン店」2割、3位「喫茶店」2割、4位「居酒屋」2割弱の順で、以上が上位項目である。

性別にみると、「ラーメン店」「居酒屋」「そば・うどん店」「ファーストフード」は男性、「ファミリーレストラン」「喫茶店」は女性がそれぞれ他を上回っている。

年代別にみると、「ラーメン店」は39歳以下が高く、「ファミリーレストラン」「喫茶店」「居酒屋」はいずれも40代が高い。また「ファーストフード」は50代以下が高い。

家族人数別にみると、「ファミリーレストラン」「ラーメン店」「ファーストフード」は3人以上が高い。

居住地別にみると、「ファミリーレストラン」は旭町・下舌辛・仲町と北町・新町が高く、「喫茶店」は北町・新町と郊外地域、「居酒屋」は富士見・中央がそれぞれ高い。また「ラーメン店」「そば・うどん店」「和食・寿司店」は郊外地域が最も高い。



その他に食の専門店では、下表のような店があげられている。

「ベーカリー・パン屋」に次いで「スターバックス」「焼き肉屋」があげられている。パン屋は飲食店としてもニーズのあることがわかる。

またそれ以外には、「おしゃれなカフェ」「くつろげるカフェ」「気軽にお茶できる店、交流の場」など、おしゃれで、気軽に利用でき、軽食が食べられる“カフェ”が求められている。

“焼きたてパンがその場で食べられるカフェ”などは、ニーズがありそうだ。

食の専門店	その他
HOTMOT	おしゃれなカフェ(2)
イズミヤ	くつろげるカフェ
ケンタッキーフライドチキン	昼食・夕食の契約店
ジビエ、鹿肉	軽食を出すカフェ
スターバックス(2)	気軽にお茶できる店、交流の場
タリーズ	パン屋(2)
ミスタードーナツ	ピザ屋
ビアガーデン	無農薬でのレストラン
ベジタリアンレストラン	回転寿司
ベーカリー・パン屋(3)	惣菜専門店
焼き肉屋(2)	イベント等に使うオードブルなどを作る店
みんなが食べて満足するおいしいお店	遠方からも訪れたいくなる独創性有るお店
体に優しい料理店	
味がとっても良い店	
量が多く安く	

9. 阿寒町商工会への意見・要望

阿寒町商工会への意見や要望を下表に整理した。

阿寒町商工会への意見・要望
“街中ギャラリーの創設”を！商店、診療所、クリニック、理容店に絵画、写真などを展示し、来所者に見ていただく。少しでも和んでいただければ。
このアンケートによって阿寒町の再開発を目指しているのでしょうか？阿寒湖畔方面からの人はほとんど星ヶ浦へ行っています。その人達を止められるだけの物ができますか？商工会は何を目指しているのですか？
せっかく高速が通ったので、何かシンボルになる商業施設があっても良いと思う。
せっかく高速道路が出来ても、阿寒町にお店がなければ人が来ないです。観光客が寄ってみたいと思えるお店づくりが重要です。もっとインターネットを利用して、参考になる地域などお店づくりを考えてもらいたいです。
にぎやかな町になってほしいです。
阿寒という町をこれからも残していけるようがんばりましょう。
阿寒町と商工会が一体となり世帯環境を調べた方が良くと思います。商工会が一生懸命働かないとなんのためにあるかわからない
阿寒町の商店街ってどこ？という感じ。
阿寒町をもっともっと楽しい賑やかな町にしてほしい。少しさびしすぎますね
街おこしは大変ですが、商工会の皆さん頑張ってください。
活気があまりにもなさすぎる
釧路市に比べ地代が遙かに安いので、ベッドタウンとして知名度を上げられないもののでしょうか。阿寒町というと湖畔に近いというイメージがあり、旧市内からは道も平坦で近いということを前面に出すと商店にも町にも人が増えると思います。
現在は、車の運転ができるので一人で買い物に行けますが、自分で買い物に行けなくなったときはアンケートの答えも変わると思います。1カ所で買い物が全てできると良い。
現在は町内に買い物に行くことができますが、この先阿寒に住み続け何十年か後に買い物をする場所がなくなるのでは困ります。阿寒で生活できなくなるのでは…と考えると不安です。
現在以下の阿寒町にならないよう若い人には頑張ってくださいとお願いしたい。
行政センターに行っても釧路市のための行政優先で、阿寒町のための行政という印象はない。また、行政センター前の信号は本当に最低。あの三叉路はやめてもらいたい。
行政センター近接地に工事中であるが、その前の計画以前に、アンケート調査を実施すべきだったのではないか？
歳を取っても町内で生活に必要なものがそろうといいです。
車が運転できなくなったら住んでいられるのか心配。そもそも町内の商店だけでこの先続けていけないのはもっと早くに分かっていたことだと思う。なんで今頃なのか？ツルハはどうなったのか。ふくはらとか生協に来てもらったら？白糠町を見習うべき、住みやすさを考えるのが第一ではないのか？これからできることなんてないでしょ。
車を運転できなくなったらトドック(生協)にするか、子どものいる町(地方)に行くか考えている。今のままでは先が心配です。

商工会から住んでいる町に希望の持てる夢を、明るさを考えてほしい。商工会自体昔のように動かない気がする。今更アンケート遅すぎるとは思うが町が消えないように明るい楽しい住みよい町にしてほしい。
小さな子がいても働ける職場がもっとあれば良いと思います
小さな町ならではの小さなお店が充実すると良いと思う。若い人も行きたくなるようなカフェがあるといい。
人の姿が見えない道路、町並みはどこの町村でも同じですが、自慢のできる物、人、何かしてほしいと思います。
全国的に知名度も高く、空港や高速道路も近い立地の良い町なので、国道沿いはもちろん、商店街も活気があれば良いなあと思います。素敵な町なので町内での消費活動も活発になるのを期待したいです。
多忙である中年世代のニーズが全く満たされていません。共働きでは町内で買い物できません。一番消費する世代を町内に引き留める方法を考えて下さい。
町内がキレイで(ゴミが落ちていたり者が壊されていたりしない)、樹がキレイに植えられているなど思っています。
年のせいか一人の生活のせいかわからない、昔から見れば阿寒町は活気がなくなったように感じます。先人達の話や昔の話を聞くと、「昔はもっともっと、活気があったよ…」と良く聞かされますが、その活気のある阿寒町時代に戻れるといいですね。
生活(買い物も含む)困難者に陥ったときの不安
歩道の花壇を人工芝にし、花をポットで入れ替えできるようにしてほしい。雑草を除去できぬ場所もあり、整備を簡単にしてほしいです。また、阿寒町の町は暗い。もう少し、街灯などで町を明るくしてほしい。
良い人が多いけど中途半端だと思う。もっと本気に町作りを考えてほしい。若い人たちを増やしてほしい。
①商工会は商店との話し合いで日曜の営業も考えたかどうか。
②商店は各々考えて客を呼ぶようにいろいろ工夫した方が良いと思う。
あいそが悪い。いらっしゃいませの一言もない
お客様への意識が全くないです。信用金庫、スタンド、コンビニなど。①笑顔がない、②レジが遅い、③商品の値段を把握していない、④客の扱いをされない。
ブランドの意味を理解し、古い風習を改善していくよう希望します。
阿寒町には殿様商売が多いと思います。他県から来たらなあなあでうんざりします。客を大事にしたらもっと変わるのではないのでしょうか？来月からニコットができることを楽しみにしていますが、どうでしょうか？
阿寒町内を循環する小型のバスが1時間に1本あれば、高齢者も自由に動けるのに、と思います。買い物するには交通手段が絶対必要です。
外国人でも買い物、飲食しやすい環境にできればと思います。英語での表記が増えるだけで、とても満足度が上がると思います。
関係あるかわかりませんが、タクシーが夜やっていないのはおかしいと思います。飲酒運転がなくなるといいと思います。せめて、前もって予約したら町内で利用できるようにしてほしい。
既にある物についてはよく利用させていただいています。一つの建物の中に銀行、郵便局などがあれば足腰の痛い方々(自分も含む)は助かります。
経営者の奥さんたちの態度が悪い。買い物に行っても、「売ってやる」「気に入らなかつたら買わなくて良い」、そんな態度の店が多い。
高速が通ってから、ガソリンスタンドが閉店していることで困っている人をよく見ます。一晩待つ人もいます。何とかありませんか？
高齢の方が多いので、店舗が少ないのは仕方ないのかな？とは思っている。車がなくても色々動くことができるようにしていただきたいです。

<p>たまに某食品スーパーに行きますが、賞味期限切れを平気で割引シール貼って売っているのはひどいと思う。あんな事がスルーされているのをまず改善すれば「また行きたい」店になるのでは？</p>
<p>ツルハやサツドラが温泉街にあるのに本町にないのは残念。昔からの個人店も大事かもしれないが、若い人たちにとってはなじみのない個人店に入りにくいのが事実。子どもの急な熱や風邪にも薬局があっても高いし、店がやっているかどうか分からないので薬も買いに行きづらい。</p>
<p>できるなら手作りコロッケや惣菜の店があると良いと思うが。</p>
<p>どのような施設、商店があっても、年配の方々が多い町なので、とにかく人のことにうるさい。買い物もしづらい現実ですね。</p>
<p>フードセンターえんどうの営業を続けてほしいです。</p>
<p>釧路市内に出て行かなくても、衣食住に関わる全ての品物を買物できることが理想的だと思います。インターネットに頼らずに、自分の目で見て品物を選んで買うことが買物の楽しみだと考えています。誰でも、同じ品を買うなら安い方が良いと思う。</p>
<p>現在一店だけ残っているスーパーも撤退を考えているとのこと。建設中のニコットも生鮮食料品の規模はどの程度の物か？せめて毎日の生活の源である魚、肉、野菜については充実した物であってほしいと思います。</p>
<p>現状、遠藤商店だけでは1~2日はなんとかなるが、休日が少ない私にとっては休日に釧路へ行ってある程度買物をもとめ買いしなければならぬ。もっと店があり必要なときに必要な者を買えるのが一番良いのですが車の免許を持っていない母は遠藤商店しか選択肢がありません。今後、父が免許を返納した場合歩いて買物ができる場所がありません。年金生活にバスでの買物は、高齢者にはきついと思います。夕方に食事できる場所がない。旧道の駅にスタバやタリーズなどができたら良いと思う。</p>
<p>現店舗がなくならないように。なじみの店なのでなくなるのは寂しい。現店舗で無いものは釧路で買っています。</p>
<p>若い人も中年以上の方々も、楽しめる雑貨店や飲食店ができてほしいと思います。</p>
<p>小さくても良いので商店が必要。遠藤商店の継続を希望。移動販売もいいです。配達を希望。</p>
<p>賞味期限の切れた生鮮品・加工品を販売しないでほしい！店頭に出さないように！どうしても販売したい場合は期限切れの前に思い切って50%offくらいに。旧釧路市の場合、生鮮・加工品を閉店2時間くらい前から数5%値引きして販売している。期限切れの物は絶対店頭には並んでいない！セブンイレブンやセコマの品質管理を見習い勉強するよう強く要望！</p>
<p>先ず一番の要望としては、本屋さんがないこと。従って阿寒町以外に出かけ、本屋の近くで買物をしてしまう。</p>
<p>全体的に価格が高いので、市内と同じくらいだと阿寒での買物が増えると思います。</p>
<p>相長やコープやフクハラのような新鮮で安く賞味期限の切れていない商品を置くスーパーが必要だ(配送もしてくれる)。</p>
<p>特産の肉、野菜など、手作り品や花、パンなど、空き店舗を利用するなどして週1度ほど直売店を運営するのはどうか？地元の交流の場にもなるのではないのでしょうか。</p>
<p>日常必要な生鮮食料店の充実。</p>
<p>品揃えが少ないのは仕方ないと思います。阿寒町の人口を考えると今の素朴な町でかまわないと思う。どうしても必要な物はネットで買えるので店舗に置かなくても良いと思います。品数をそろえると経営が成り立たないのではないかと思います。</p>
<p>イベントカー(町内を回っている)を集めての飲食イベントや、通勤途中で見かける鳥取あたりでは、高齢の方が集まってラジオ体操をしている。有名な店を誘致するのは簡単なもので、そういうのがなくても人が集まる集会やイベントを企画してください。</p>

<p>イベントがある時、外部からの歌手を呼ぶのも良いと思いますが、若い人の唄は年取った人たちにはわかりません。出来れば演歌、歌謡曲などの歌手をお願いしたい。そうすることによってお年寄りも行ってみる気になると思います。また、地元歌手を呼んでほしい</p>
<p>阿寒町の商工会として年末のカレンダー、イベントの経費を接遇の勉強会として考え直すのも必要かと？阿寒町の自然、環境、人間性は大好きですが、買い物をして客としての満足感はないです。ぜったい、皆様で考えてください。</p>
<p>活気ある商店街にするために、皆様がもう少し外出できるイベントやコンサートなどもう少し多くあれば嬉しいです。</p>
<p>公園などで催し物などどうでしょうか？</p>
<p>市内で働いていたときに“どんぱく”が始まった。この時は参加店が数年赤字の計算をしていた。各店赤字の解消に苦労していた。阿寒町は赤字を嫌うあまり、行事が中途半端になっている。</p>
<p>みんなで気楽にあつまってコーヒーでも飲める場所がほしい</p>
<p>もっともっと、都会の味付け、専門のところで勉強会を開いてください。</p>
<p>飲食店では、休日に来客が来ても大人数で行ける店があるといいです。</p>
<p>日曜日、遠方からの来客に昼食を町内で食べようと思っても食堂など開いていない。また、食べたい料理を出す食堂がない。</p>
<p>アンケート集計結果は商工会ホームページなどで掲載とあるが、その方法が全てなのか？パソコンを持たない人への配慮があるのか、集計結果を全町民に知らせる方法をとってほしい。</p>
<p>ニコットができる今になってこんなアンケートおかしい。もっと早くにするべきではなかったか？</p>
<p>関係ないとは思いますが、釧路～札幌間の都市間バスを高速入口前の片山停留所から乗降できるように要望してほしい。国道の停車スペース、できれば駐車場や待合室の建設を要望します。大楽毛まで行かなくても良いようにしてほしい</p>
<p>高速バス(札幌行)を阿寒で乗れるようにしてほしいです。わざわざ釧路まで行くのは大変。</p>
<p>商店、商店街にしても活気がない。商工会としても色々研究が必要であると思います。</p>